Anritsu Advancing beyond

2023年3月期 業績概要

窪田　顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2023年4月28日

東証 プライム
証券コード：6754
https://www.anritsu.com

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目　次

1. 事業概要
2. 2023年3月期 連結決算概要
3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて
Appendix

(ノート部記載なし)

1. 事業概要

Anritsu
Advancing beyond

通信計測事業
ネットワーク社会の進化・発展

- ▷ モバイル市場 ： 5G、5G利活用
- ▷ ネットワーク・インフラ市場 ： データセンター、光NW、無線NW
- ▷ エレクトロニクス市場 ： 基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業
食の安全・安心

- ▷ X線検査機
- ▷ 金属検出機
- ▷ 重量選別機

その他

- ▷ 環境計測
- ▷ センシング＆デバイス

（セグメント別売上比率）
2022年3月期 実績（連結） ： 1,054億円

通信計測 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

2023年3月期 実績（連結） ： 1,109億円

通信計測 66%			PQA 22%	その他 12%
モバイル 51%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 19%		

（通信計測事業 地域別売上比率）
2022年3月期 実績

日本 17%	アジア他 45%	米州 24%	EMEA 14%

2023年3月期 実績

日本 15%	アジア他 43%	米州 24%	EMEA 18%

PQA：Products Quality Assurance

（ノート部記載なし）

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

前年同期比受注は1%減、売上は5%の増収。営業利益は29%の減益、当期利益は28%の減益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
受注高	**1,107**	**1,101**	**△ 6**	**△1%**
売上高	**1,054**	**1,109**	**55**	**5%**
営業利益	**165**	**117**	**△ 48**	**△29%**
税引前利益	**172**	**124**	**△ 48**	**△27%**
当期利益	**128**	**93**	**△ 35**	**△28%**
当期包括利益	**161**	**133**	**△ 28**	**△17%**

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比1%減の1,101億円、売上高は前年同期比5%増の1,109億円となりました。営業利益は前年同期比29%減の117億円、当期利益は前年同期比28%減の93億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

Anritsu
Advancing beyond

通信計測は前年同期比減収減益、PQAは増収増益、その他は増収減益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
通信計測	売上高	733	728	△ 5	△1%
	営業利益	152	109	△ 43	△28%
PQA	売上高	220	248	28	13%
	営業利益	12	13	1	14%
その他	売上高	101	133	32	32%
	営業利益	11	6	△ 5	△46%
調整額	営業利益	△10	△11	△ 1	-
合計	売上高	1,054	1,109	55	5%
	営業利益	165	117	△ 48	△29%

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA：Products Quality Assurance

ANRITSU CORPORATION　Financial Results FY2022　6

通信計測事業は、データセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要や汎用測定器の需要を獲得しましたが、モバイル市場の成長鈍化と、原材料価格の高騰や世界的なインフレ、人件費上昇等による固定費の増加、販売促進費の増加が影響し、売上高は前年比1%減の728億円、営業利益は28%減の109億円（営業利益率14.9%）の減収減益となりました。

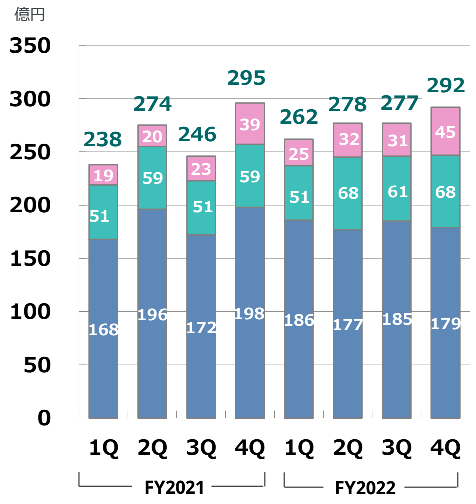
PQA事業は、米州を中心に食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資需要が堅調に推移しました。費用面では、原材料価格の高騰に加えて、販売活動の強化による販売促進費や物流費等の増加が影響しましたが、売上高は前年同期比13%増の248億円、営業利益は前年同期比14%増の13億円（営業利益率5.4%）の増収増益となりました。

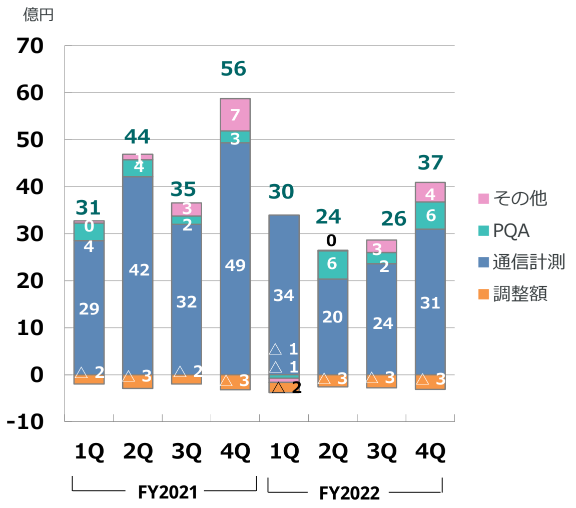
その他の事業では、売上高は前年同期比32%増の133億円、営業利益は前年同期比46%減の6億円（営業利益率4.6%）の増収減益となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

Anritsu
Advancing beyond

4Q(1-3月)営業利益率：連結 13%, 通信計測 17%, PQA 8%





（注）値はそれぞれで四捨五入

第4四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	37億円（営業利益率：12.8%）
通信計測	31億円（営業利益率：17.1%）
PQA	6億円（営業利益率： 8.4%）

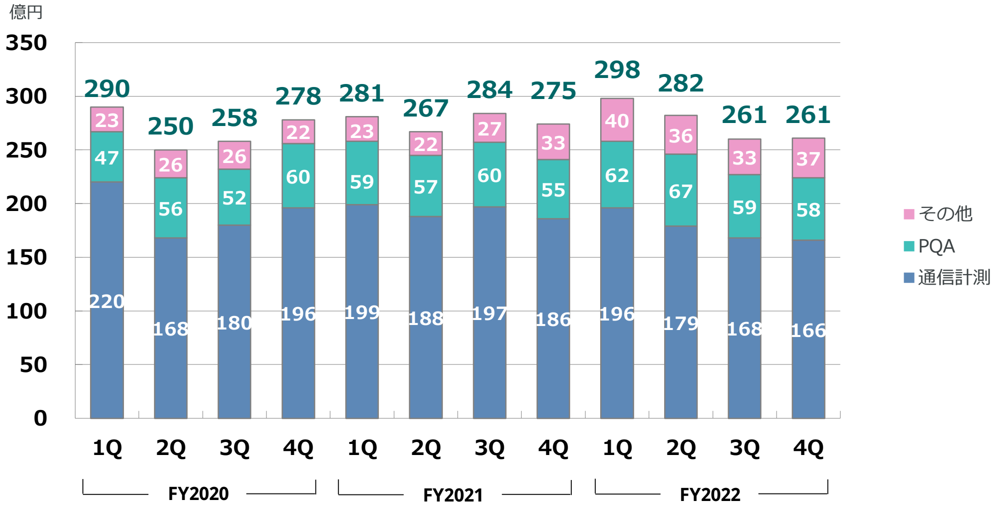
2-4. 事業別営業概況

セグメント	2023年3月期（4-3月）の状況
通信計測	世界的な物価、人件費上昇等で、顧客は設備投資に慎重姿勢 固定ネットワークの高速化需要は順調 部品不足については改善傾向
モバイル	経済状況の不透明さに起因する顧客の投資判断の遅れなどにより、モバイル市場の成長が鈍化
ネットワークインフラ	米欧中心に固定ネットワークの高速化への投資は順調に推移
エレクトロニクス	６G基礎研究がスタート
アジア他・日本	中・韓・台の5Gスマホ関連の開発投資が減速傾向 日本は依然として通信計測市場全体が低迷
アメリカ	固定ネットワーク高速化への投資は順調 5Gスマホ関連の開発投資にブレーキ
PQA	アメリカでの需要が堅調、アジア・日本も回復傾向

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

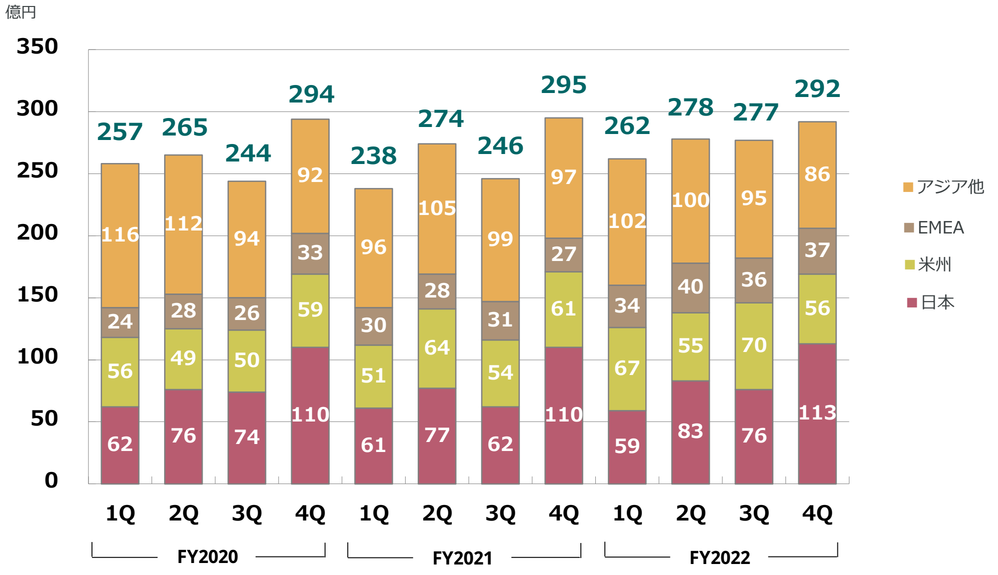
- 通信計測：前年同期比11%減
- PQA　　：前年同期比 5%増



（注）値はそれぞれで四捨五入

通信計測事業の第4四半期の受注高は、前年同期比11%減の166億円となりました。PQA事業の第4四半期の受注高は、前年同期比5%増の58億円となりました。
なお、受注残高はグループ全体で345億円（前年同期比8%増）、通信計測事業では226億円（同6%増）、PQA事業では65億円（同1%減）でした。

2-6. 地域別売上高推移



（注）値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶営業CFマージン率 5.5%

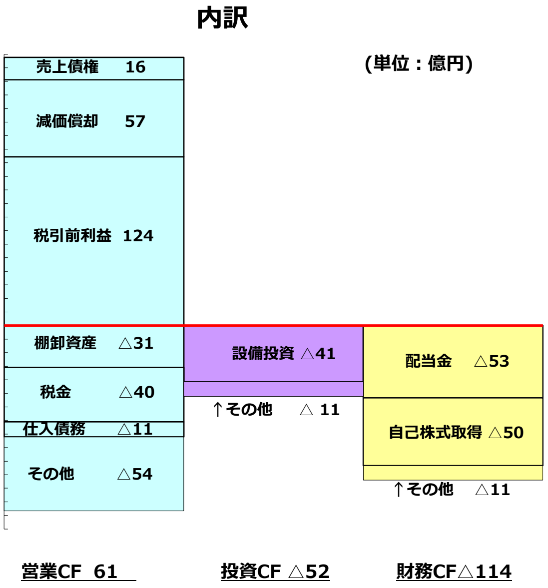
FY2022（4-3月）
①営業CF：　61億円
②投資CF：　△52億円
③財務CF：△114億円

フリーキャッシュフロー
（①＋②）：　9億円

現金同等物期末残高
368億円

有利子負債高
66億円

（注）値はそれぞれで四捨五入



営業キャッシュフローは、61億円の資金獲得となりました。
投資キャッシュフローは、52億円の資金支出となりました。
その結果、フリー・キャッシュフローは9億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、114億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い53億円（期末配当分1株20円および中間配当分１株20円）と自己株式の取得50億円です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より89億円減少の368億円となりました。

3-1．2024年3月期 通期業績予想（連結）

Anritsu
Advancing beyond

新たに開示する環境計測事業を含む主要３セグメント全てで増収増益を狙う

（単位：億円）

		2023/3期	2024/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,109	1,155	46	4%
営業利益		117	137	20	17%
税引前利益		124	137	13	10%
当期利益		93	100	7	8%
通信計測	売上高	728	740	12	2%
	営業利益	109	120	11	10%
PQA	売上高	248	260	12	5%
	営業利益	13	16	3	20%
環境計測	売上高	64	90	26	41%
	営業利益	1	6	5	-
その他	売上高	69	65	△ 4	△6%
	営業利益	6	5	△ 1	△11%
調整額	営業利益	△ 11	△ 10	1	-

（参考）FY22 為替レート ：１米ドル135円、1ユーロ141円
FY23 想定為替レート ：１米ドル130円、1ユーロ140円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

情報通信分野においては、欧州における5Gサービスの本格的な普及や5G利活用分野への広がりなどにより、今後も5G関連の開発需要は継続していくことを見込んでいます。また、データセンター等でのネットワークインフラの拡充に向けた需要の拡大も期待されます。
当社グループは、5G及び5G利活用ビジネスとネットワーク高速化の需要拡大に的確に対応したソリューションをタイムリーに提供することで、競争力優位を確立し、5G/IoT社会を支えるリーディングカンパニーを目指します。
また、重点的に新たに成長させる4つの分野を「EV、電池測定」、「ローカル5G」、「光センシング」、「医療・医薬品」と捉え、それぞれの分野で外部との連携やM&A等を行うことで成長を加速させてまいります。

なお、2024年3月期より、「その他の事業」に含まれていた「環境計測事業」について報告セグメントとして記載する方法に変更します。

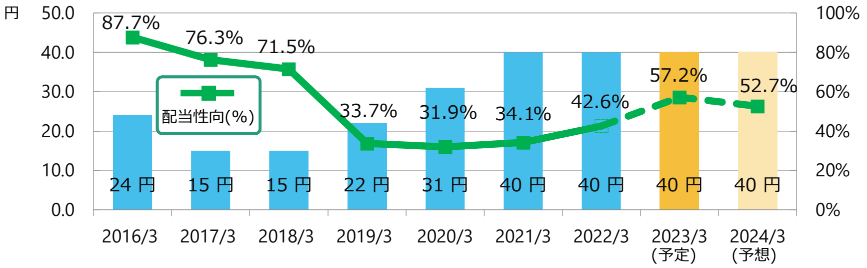
3-2. 配当予想について

Anritsu
Advancing beyond

● 2023年3月期　総還元性向：111%（配当53億円、自己株50億円）

	年間配当	当期利益	配当性向	ROE
2023年3月期	40円	93億円	57.2%	8.0%
2024年3月期	40円	100億円	52.7%	9%

● 剰余金の配当等の決定に関する方針
　目標とする連結配当性向を30%以上から50%以上へ変更



ANRITSU CORPORATION　Financial Results FY2022　13

2023年３月期の配当は、2022年4月28日の2023年３月期業績予想発表時に公表した１株当たり年間40円（うち中間配当20.0円）を予定しております。なお、ROEは8.0%です。

2024年３月期の配当は、業績見通しの達成を前提として、１株当たり年間40円（うち中間配当20.0円）を予定しております。
今後も、総還元性向を勘案した利益処分を行うことで、株主還元の充実を図ってまいります。

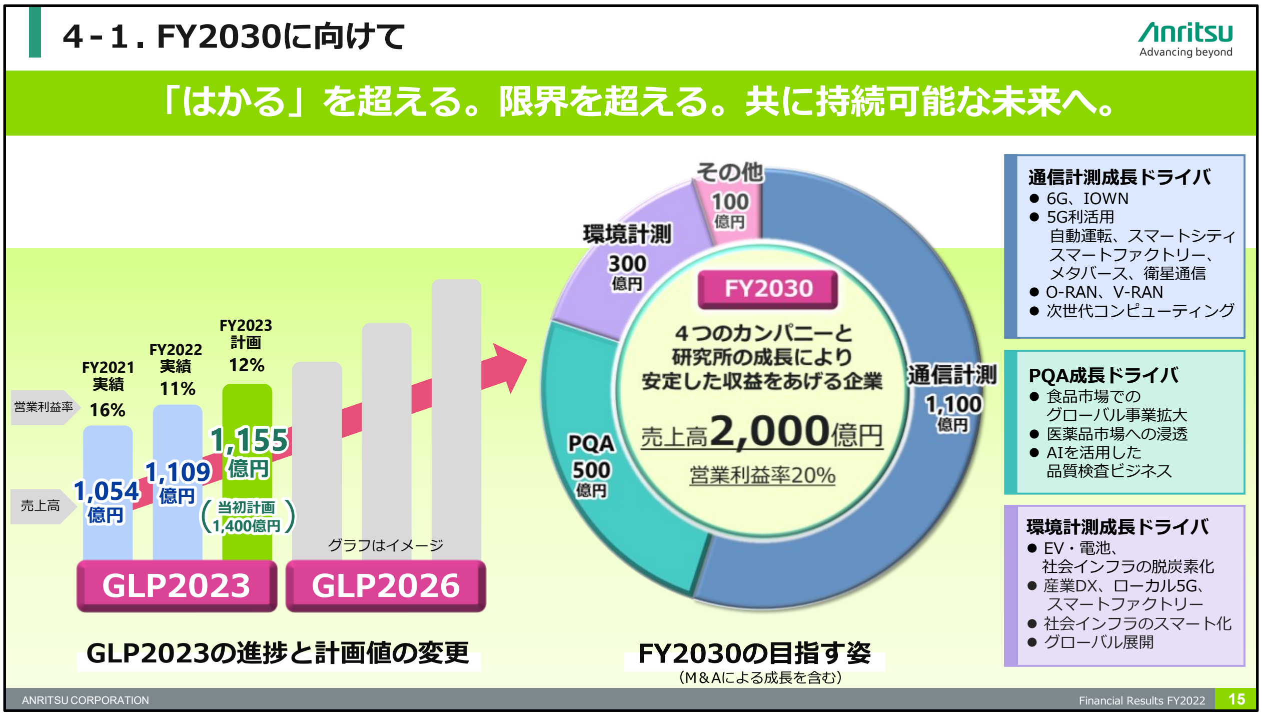
また、剰余金の配当等の決定に関する方針について、連結配当性向の目標値を30%以上から50%以上へ変更しました。

4.当社の取り組みについて

濱田　宏一

アンリツ株式会社
代表取締役　社長

(ノート部記載なし)



2021年の計画立案時から外部環境が大きく変化したことを受け、GLP2023の最終年度である2024年3月期の連結売上高は、当初計画の1,400億円から1,155億円に見直しました。

また、2030年の目指す姿における各セグメントの数値目標を示します。
各セグメントは、オーガニック成長とM＆Aにより、連結売上高2,000億円の達成を目指します。

2023年4月より新たに開示セグメントとした環境計測事業についてご紹介いたします。

当社グループのコンピテンシーである「計測」、「情報通信」、「エネルギー制御」を融合して、「カーボンニュートラル」、「産業のデジタル変革」、「社会インフラのレジリエンス」の 3つの社会課題解決への貢献を目指し、以下の市場でビジネスを展開します。

「EV・電池の性能向上と普及、社会インフラの脱炭素化」
「省人化や生産性の向上に向けたローカル5G・デジタル技術活用」
「通信・道路・電力・水道・鉄道など社会インフラ監視の高度化」

環境計測事業が提供する主なソリューション例を２つご紹介します。

1つ目は、EV・バッテリ開発市場に対するソリューションです。EVの主要部品であるバッテリ、インバータ、モーターの性能や信頼性評価に用いる「EVパワートレインエミュレーション」や「バッテリ充放電試験システム」などの各種試験装置を提供します。

2つ目は、スマートファクトリーに対するソリューションです。ローカル5Gの導入・運用・活用支援や、デジタル技術の活用を促進する製造DX支援システムにより、工場の省人化や生産性向上に貢献します。

4-4. MWC 2023の概要

Anritsu
Advancing beyond

Mobile World Congress

世界最大のモバイル機器見本市
2023年2月27日～3月2日
バルセロナで開催

MWC GSMA

NTTドコモ社のブース

主なトピック

- **来場者は2019年の80%まで回復**
  202カ国、8万8千人以上の来場者。
- **5G 利活用**
  衛星通信サービスやRed Cap（Reduced Capability）関連の展示
  あるいは技術発表が数多く行われていた
- **O-RAN（Open Radio Access Network)**
  NTT docomo社による新ブランド「OREX」など、
  O-RANに関する展示が多数見受けられた
- **6G センチメートル波**
  6Gを見据え、Ericsson社は、7G～15GHz帯（センチメートル波）
  に対応した基地局のプロトタイプを展示

Intel社ブースのO-RU紹介

*OREX: Open RAN Ecosystem Experience

(ノート部記載なし)

4-5. MWC 2023　アンリツの出展

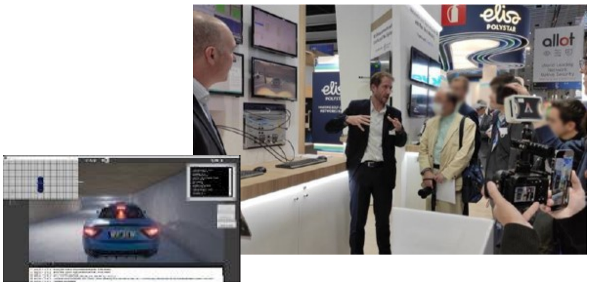
アンリツブースでの展示品の一部を紹介

Automotive

**<u>5G対応車載アプリケーション
テストソリューション</u>**

with dSPACE

**dSPACE社との共同展示で、
自動運転で駐車を行う自動バレーパーキングType-2に準拠した
シミュレーション環境のデモンストレーションを行った。**



O-RAN

**<u>O-RUの自動測定
テストソリューション</u>**

※O-RU: O-RAN Radio Unit

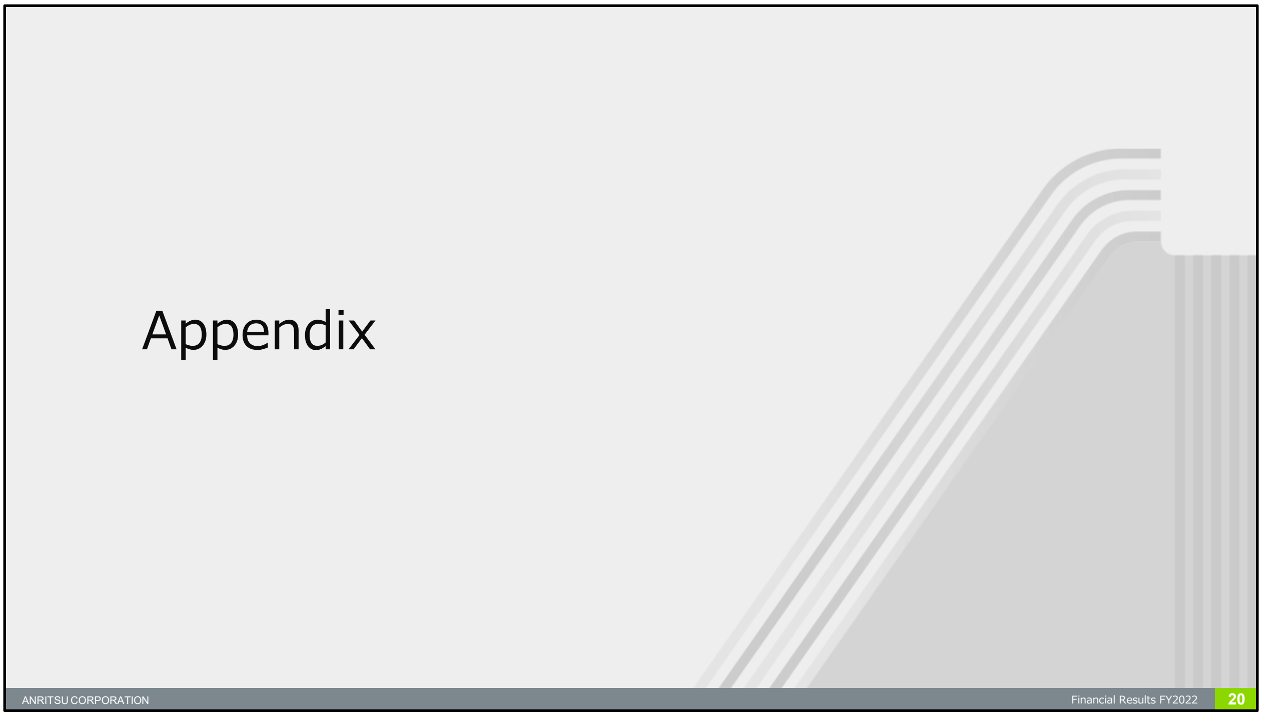
with **Spirent社**

**実環境に近い
ネットワーク環境における
O-RUの自動測定ソリューションの
デモンストレーションを行った。**

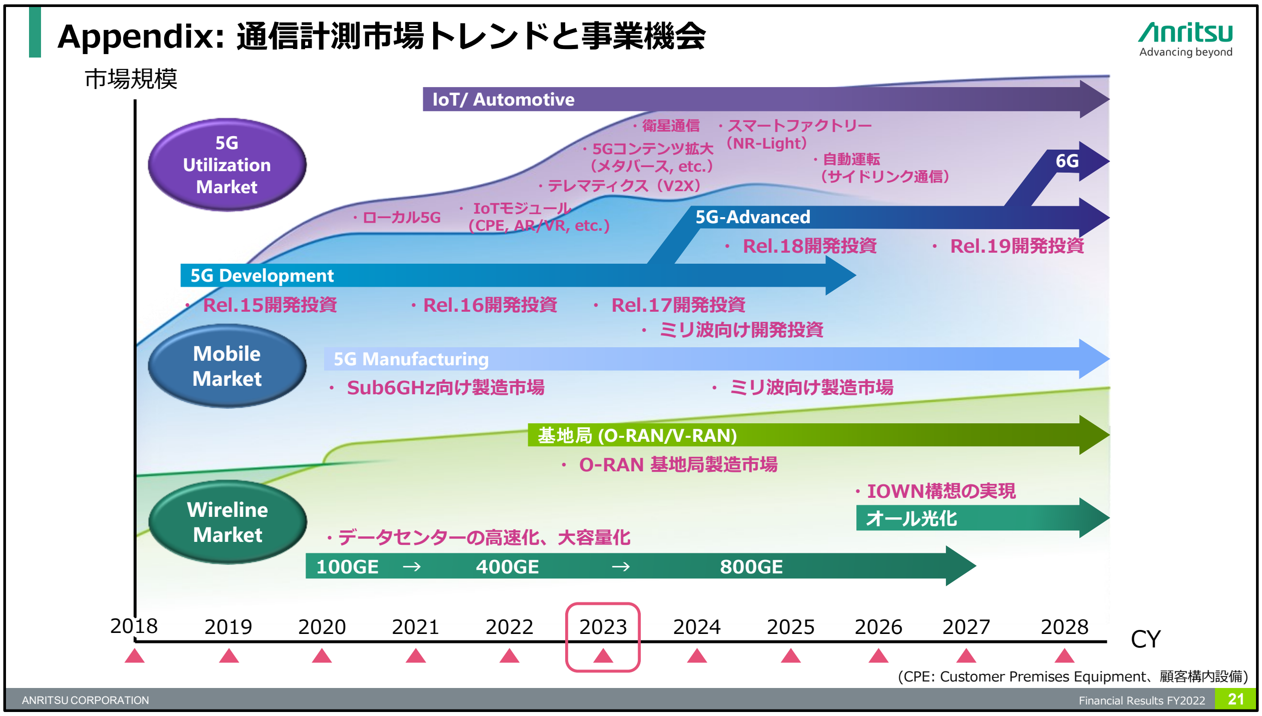
ラジオコミュニケーション
テストステーション MT8000A

O-RAN ALLIANCE

(ノート部記載なし)


Appendix
ANRITSU CORPORATION
Financial Results FY2022
20

(ノート部記載なし)


Appendix: 通信計測市場トレンドと事業機会
Anritsu
Advancing beyond
市場規模
5G Utilization Market
Mobile Market
Wireline Market
IoT/ Automotive
・衛星通信
・スマートファクトリー（NR-Light）
・5Gコンテンツ拡大（メタバース, etc.）
・自動運転（サイドリンク通信）
・テレマティクス（V2X）
・ローカル5G
・IoTモジュール（CPE, AR/VR, etc.）
6G
5G-Advanced
・Rel.18開発投資
・Rel.19開発投資
5G Development
・Rel.15開発投資
・Rel.16開発投資
・Rel.17開発投資
・ミリ波向け開発投資
5G Manufacturing
・Sub6GHz向け製造市場
・ミリ波向け製造市場
基地局 (O-RAN/V-RAN)
・O-RAN 基地局製造市場
・IOWN構想の実現
オール光化
・データセンターの高速化、大容量化
100GE → 400GE → 800GE
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
2026
2027
2028
CY
(CPE: Customer Premises Equipment、顧客構内設備)
ANRITSU CORPORATION
Financial Results FY2022
21

(ノート部記載なし)

(ノート部記載なし)